

金沢市横安江町商店街視察報告

平成18年9月 沼津商工会議所

浅井名実人

今回上本通り商店街の方々と金沢に2つ(香林坊・片町地区と武蔵横安江町商店街地区)ある中心商店街のうちの一つで、「金沢表参道」として生まれ変わろうとする横安江町商店街視察に同行させていただきました。

この商店街は、およそ3百年昔、浄土真宗大谷派金沢別院の門前町として、古着屋などが軒を並べて商売したのが初めとされています。

横安江町商店街は、総延長330メートル、幅員8メートル、昭和34年に全蓋式アーケードを建設し、雨や雪の心配のない「横のデパート」として賑わいを見せましたが、昭和60年以降は、同じ金沢市の中心商店街である香林坊地区での大型開発や、郊外型SCの進展、そして、バブル崩壊による平成の大不況の影響で、一気に衰退をしました。この低迷により、組合員数も最盛期の半分となり、空き店舗数も増加、アーケードも老朽化し、昼間でも商店街には、人通りもまばらな状況でありました。

このような中、横安江町商店街では、懸案となっていたアーケードを建て替え問題解決のため、商店街振興組合員と町内会が一緒になって検討するための「横安江町商店街まちづくり協議会」を設置しました。この会は、商店街振興組合員・町内・地権者からなり、商工会議所・市役所はオブザーバー出席でした。

この事業は、まずは、「アーケード撤去」次に「電柱地中化を含むモール化」そして、アーケード撤去に伴い、街路に面するところの多くの店舗で必要となる「街並み形成へ向けてのファザード整備」でした。

これらの全ての事業を実施するためには、相当な費用が見込まれますが、長年衰退傾向にある商店街にとって負担は無理でありました。しかし良いことに、電線地中化を含むモール化は、横安江町の街路が市道であったこともあり、経済産業省補助事業である「中心市街地歩行環境整備事業」の適用を受けて施行、概算7億円かかった費用の地元負担は無く済みました。

また、ファザード修景事業は、金沢市の商業振興施策である「中心市街地ファサード整備事業」により助成を受け実施し、一店舗原則200万円が上限のところ、半額補助を受けることができました。

しかし、アーケード撤去費に関しては、補助・支援の対象となる施策はなく、総額2100万円程が地元負担となり、その負担割合は、「街づくり協議会」で合意された基準(全長330mある街区を間口割りとして、1㎡あたり3,500円)により、事前積み立てが行われ、そこから支払われました。アーケード撤去工事は平成17年8月に完了しました。

これらのハード事業整備事業に平行して、各種のソフト事業も展開されており、毎月第1日曜日の「もんぜん市」、別院と連携した「花まつり」、地元金沢美術工芸大学とともに進めている「アートな絵看板」「美術のセンスを生かしたショーウインドー」等のアートな商店街づくりなど、積極的に取り組みをしています。

事業概要は以上であります。役員等との意見交換のなかで、当初、アーケード撤去について賛成・反対・未定が共に3分の1、高齢者率も高く、後継者がいる店が5分の1ぐらいといった状況の人達が、喧喧誇誇の話し合いをしながら実現にこぎ着け、その結果、暗く寂しい印象であった商店街が明るく歩きやすい風情のある街となり、雨の日でも客足が

それほど変わらない状況となり、メリットがあったとの話を伺いました。

また、このほかに感じたことは、行政の中心市街地への施策が充実しており(17にもおよぶ街づくりに関する条例)、特に市長の「市民の暮らしを第1に考えながらも中心市街地再生に対する強い思い入れ」が、対応して頂いた方々から市長への感謝の気持ちとして聞かれた。

「百聞は一見にしかず。」皆さんと、参考となった楽しい時間を過ごすことができ、ありがとうございました。

横安江町商店街視察報告書

沼津信用金庫

溝淵俊次

- ・視察日時 平成18年8月29日・30日
- ・視察場所 横安江町商店街地区

1.総評

今日上本通り商店街アーケード設備に係る将来的対応の如何について、その検討課題を探る先として、又道路設備についてのあり方を学ぶ先として、標記商店街視察となった訳であるが、下記内容通り参考となる所多々あった。

〈参考となりうる点〉

- ①当地区限りの問題とせず、金沢市商工会議所も積極的に関与し、当横安江町商店街が金沢市内においてどういった役割を果たすべきか、又将来的にどういった内容を担うことが相応しいかをよく協議、話を煮詰めた中で計画が作られ実行されたことから、役員・組合員がまとまっていると感じられた。
- ②アーケードを除去することは、寒冷地においては思い切った策と考えるが、問題を感覚的・情緒的に捉えず、新しい発想・技術・工夫を研究し積極的に採り入れたことから、問題に対する解決のあり方がアーケード除去だけに留まらず、歩ける街づくりを標榜しつつ商店街の中にもバスの乗り入れを認めるなどの弾力的対応が図られている。又併せて電線の地中化を求めるなど、総合的インフラ整備にまで意を払っている。
- ③当商店街改善の発端は、アーケードの除去に係ることからだと伺っているが、これの協議について商店街組合員だけでなく、町内会員そして商店主、会員ではない土地等不動産所有者までも巻き込んだ三者協議会が作られ、それが最後まで分解せず機能を果たしたことは役員の人柄とまち作り・商店街の再興に向けた熱意によるものと感じた。

〈課題と思われる点〉

- ①横安江町商店街が真宗別院の門前町として長年の歴史的宗教的位置が明確になっており、市民の中でも認知されているのに対し、当上本通町は沼津兵学校附属小学校(代戯館)跡としての認知度と意味をより高める必要がある。

- ②商店主が当沼津と比してオーナー経営者の比率が高いことにより、商店街の改善・街づくりに対し長期的視野を有している。
- ③地域的特性なのかもしれないが、経済的自律性・独立性が当沼津の方がやや弱い感があるように思えた。

2.金沢 21 世紀美術館館長蓑豊氏との面会

(目的)ぬましんストリートギャラリーを現在担当していることから、目下全国で最も注目を浴びている当館の館長にその根拠、方策を伺った。

- ①美術館を一つのイベント会場として位置づけ、子供・若い人達が集まる美術館として人が賑わうことを優先している。
- ②金沢市の助役をも兼務しており、美術館=文化を中心として街を変えていくのだという強い意志と行政に民間発想を入れたダイナミズムが大いに感じられた。

金沢市 横安江町商店街視察報告書

上本通り商店街振興組合
遠藤忠男

〈はじめに〉

平成 18 年 8 月 29 日、30 日と 2 日間に渡り、金沢市にある横安江商店街を視察した。当商店街は 300 年ほど昔、浄土真宗大谷派金沢別院の門前町として始まり、現在も江戸時代から続く老舗商店の多い町である。

昭和 34 年には全蓋式アーケードを建設、雨、雪の心配が無い商店街として大いに賑わい繁栄した。しかし、昭和 60 年代になり、同じ金沢市中心商業地、香林坊地区の大規模開発や郊外型大型店の進出等の影響で一気に衰退の度を深めていった。

今回老朽化したアーケードを撤去するに当たり、当商店街の将来像を明確にする為に、商店街振興組合、町内会、地権者で協議会を作り、そこに商工会議所、市役所も参加し、3 年間に渡る真摯な話し合いの結果、2006 年 3 月には、ほぼ全体の工事は終了、現在ファサード整備事業に着手、街路名も「金沢表参道」として生まれ変わろうとしている。

〈整備内容〉

●電柱の地中化、変圧器箱の一箇所集中配置

→歩行者からは植栽等で目立たなくしてある

●V字型側溝

→道路の中央部に排水口があり、両側店舗部分は水捌けが良く歩き易い。

●

コミュニティーバスの運行

→アーケード撤去後、オープンエアになった商店街を金沢市のコミュニティーバスが周回、(ICチップを付け、電波をキャッチしながら運行し、手を上げれば、どこでも乗車出来るシステムになっている)

●アートフルな街づくり

→金沢美術工芸大学の学生と商店街との協力で、アートな絵看板、アートなウインドーディスプレイ、アートな商店街活動等が実施されている。

〈考察〉

◆商店街振興組合員、町内会員、地権者、商工会議所、そして金沢市が一体となって街の将来像を考え実施、遂行した。

◆山本保、金沢市長の「市民の暮らしを第一義にかんがえる。」という政治哲学が大いに街の再開発に影響している。(金沢市の町づくり行政は、商店街、市民を重視した多くの事業、条例が充実している。)

◆歴史と伝統のある北陸一の大都市、金沢市民、商店街の人達には地元を愛し、大切にすゝる気持ちとプライドが感じられた。

〈我町、上本通り商店街の課題〉

■老朽化したアーケードの撤去、及びその後の街路整備の企画、立案。

■沼津兵学校附属小学校(代戯館)があった町として広く一般に宣伝。

■映写会や「映画友の会」の設立など、企画、実行。(昭和30年代、東部一の映画館街として栄えた町)

上本通り商店街 金沢市視察同行記

商工振興課商業係長 柴田章義

1 金沢市まで

8月29日 火曜日、連日の夜中までの残業の疲れもみせず、私「商工振興課商業係長 柴田」が元気よく目覚めた時刻は午前5時30分でありました。相変わらず時間に几帳面な私は、その後もてきぱきと身支度をこなし、6時30分には愛する妻子との毎朝恒例の見送りの「口づけ」を交わした後、妻の運転する車（マツダデミオ）にて自宅を後にしたのです。

心配された天候も晴れやかな青空をみせ、（やはり私は晴れ男であるのだなあ）としみじみ感心していたところ、早々と沼津駅に到着いたしました。

さすが、商都沼津でも歴史のある「上本通り商店街」のお歴々、約束の7時に遅れることもなく、全員集合（長谷川理事長・遠藤副理事長・ファッションハウス ヒロフの柏木さん・ファッションショップ タニビシの日下部さん・溝淵沼津信用金庫理事、浅井商工会議所産業振興部長プラス私（柴田）の計7名）。全員が円陣で肩を組み「レッツゴー上本、レッツゴ - 沼津」の掛け声を3回熱唱のもと、沼津駅を後にしたのでした。（ウソです）

三島駅では新幹線こだま号に乗車しましたが、豊橋駅で「ひかり」号に乗り換えをいたしました。綿密に計算された行程に少なからず驚かすにはいられなかった私でありました。

米原駅にて北陸本線「特急しらさぎ3号」に乗り換えました。もともと乗車予定の自由席は満席状態でありましたが、誰からの声でもなく、「空席の指定席に乗ってしまい、その席に本来の乗車権利者が着たら他の席に動けばいい」と、即、皆の意見がまとまったときには、上本通りの素晴らしいチームワークに感動しました。

車内では、遠藤副理事長や沼津信用金庫の溝淵氏の博識ぶりを堪能し、途中眠気に襲われたときも「長谷川理事長」のソプラノのようなドスの聞いたさわやかな美声に（これは寝ている場合じゃない）と思わず目を覚まさせられ、私も会話に参加しながら、楽しい車中を過ごさせていただきました。

結局、急遽購入した指定席にもかかわらず先有権利者が来ることもなく、金沢駅到着時には「ついていたねえ」「日頃の行いだよ」だの「神様はちゃんと良い人間を見守っているんだよ」等の自負にあふれた発言の数々に、さすが上本商人と思わずにはいられない私でありました。

金沢駅到着時も晴天、金沢駅前の巨大な木製の門の前で恒例の全員での記念撮影、周辺にいた旅行者らしき方にあつかましくもシャッターをお願いしたところ、物騒な一団に恐れをなしたのか、快く2台のカメラ（長谷川理事長がデジカメとフィルムカメラの計2台

を持参していたため)のシャッターを押していただきまして、ここから金沢市の視察がスタートしたわけでありませう。

2 金沢市内

金沢駅周辺は巨大一流ホテルに囲まれているにもかかわらず、さらにホテル建設が進んでいるとのこと。さすが翌週この地に観光に訪れる我が商工振興課商業係の紅一点「太田亜紀子(美人と誉れ高いが、彼氏いない歴27年?)」が目をつけるだけのことはあります。

そんなことはさておき、明日の視察の目的地である「横安江町商店街」を事前に見学しようと、皆さんは長旅の疲れもみせず、徒歩で横安江町商店街を目指しました。

横安江町商店街は、他の方が紹介していると思いますので詳細は略しますが、特色としては、全蓋式アーケードを取り除き、電線の地中化、歩道整備、ポケットパークの新設等、アーケード撤去に伴い街並みを整備し、生まれ変わった商店街なのです。

浄土真宗大谷派金沢別院の門前町として古くから栄えたとのことで、その面影はまちの随所に残されています。そのような建物の一つである、古い造りの木造3階建ての蕎麦屋「たきや」を発見した一同は、「珍しいなー」「古い建物やけど今でもやっているんかいな」などと騒ぎながら店先で写真を撮影していると、店の主人が強盗でも現れたかと玄関先から出現しました。

当初は、(薄汚い親父だけど、本当に蕎麦屋の主人か?)と不謹慎な第一印象でしたが、話をよく聞いてみると、前町内会長であったとのこと。話す言葉にも人を引き付けるものがあり、明日の昼は、是非昼食を取らせてもらいながら、まちのお話などを伺いたいとお願いせずにはいられなかった一同でありました。

しかしながら、横安江町商店街は人通りがなく、新しく整備された街並みの割には寂しい印象で、アーケードを撤去した商店街として有名なこの町は一体どうなっているのだとの思いは、本日は商店街の定休日であるとのことで霧消しました。明日はきっと多数の人々で賑わう商店街に出会えるのだと胸を躍らせた私なのでした。

横安江町商店街を後にし、昼食のためすぐ近くの「近江町市場」に出向いたところ目的の店は超満員。他の店も同様の状況だったため、意を決した日下部氏が市場外にある「浅田屋」という和風料理屋風の店に入ったところ、和服姿の美人女将が登場。女将によると一泊最低5万円はするという超高級料亭旅館。予約無ではとても(予約しててもとても)入れるはずもありません。ところが、その旅館を到底利用できそうもない風体の我々に対し、その女将が親切にも、近江町市場内の旧知の寿司屋「寿司処 源平」まで案内して下さり、席まで準備してもらえするというラッキー。加賀の海の幸に舌を躍らせた一同でありました。

昼食後は、満腹の腹を抱えながら「金沢21世紀美術館」(溝淵氏が館長に依頼事があ

り、我々も美術品の視察を兼ね)に立ち寄りました。もともとアーティスト的な才能の持ち主と自他ともに認められる私です。美術品の数々を鑑賞し、食い入るように展示品を見つめていると、商店街の誰からともなく声を掛けられました。時の立つのも忘れるほどアートの世界に没頭していた自分に気が付き、我に帰った私なのでした。(芸術家人生を歩んでいれば、今ごろ公務員などには)と、人生の進むべき道を誤ったかと悔やんだ瞬間でもありました。

「金沢21世紀美術館」にほとんど隣接する兼六園への途中、金沢名物である金箔の販売店「今井金箔広坂店」を見つけた一同は店内の金箔製品の物色を始めました。貧乏人の私にはとても手がでない代物でしたが、遠藤さんは店内全ての品物を買ってしまおうかのような勢い。しかし、結局買占めまでには至りませんでした。良いお土産が買えたと皆さんご満悦の様子でした。店を出る直前に、店の若い店員から、夕食の美味しい店の情報を聞き出し、兼六園に入りました。

兼六園を訪れるのは3度目の私ですが、昔も今も変わらない兼六園でした。

兼六園を見て周り、さすがに疲れはてた私達は、旧石川県庁舎、石川近代文学館などの文化遺産的建物に立ち寄りながら、本日逗留する「ワシントンホテル」に一時身を潜め、とりあえず夜に備えたのでした。

夕食は、今井金箔店の若い店員が推薦した店に入りました。店内は薄暗く、(これはなかなかやるな)と思わせられましたが、普通の居酒屋でした。ただ、店内で働く女の子(ウェイトレス)に「今日金沢で出会った女の子の中で一番美人に巡りあえた」と、口から出まかせを言ってしまったところ、本人は本気に取った様子であり、心から反省いたしました。ところが、日頃から少なからず容姿に自身を持っているらしいこの女の子、「いい女でしょう」との態度丸出しで料理や飲物を運んでくるのには、いささか辟易しましたが、この女の子のサービスが心なしか良くなったように思えたのは私だけでしょうか。嘘も方便とはまさしくこのことだなあと、いついかなる時でもリサーチを忘れない私なのでした。

夕食後は三々五々別れ、ホテルに帰った方、夜の金沢を思う存分味わった方など色々いらっしゃったようです。しかしながら、夜といえども、現在金沢での視察研修中の私。公務員としての立場を忘れず、昼間よりも賑やかな夜の金沢で、若い日本人の女の子を含め、様々な国籍の魅力的な女性達からの誘惑にも一切乗らず、「沼津の中心市街地活性化、商店街振興に資するものはないか」と夜の金沢の街を調査・探索して回りました。結局、最終的にはラーメンを食べることで終りにしましたが(旅行先では必ず地元のラーメンを食べることにしている私です)、歩き回ったせいかラーメンだけでは腹が満ち足りず、ホテルの目の前にある「ミスタードーナツ」で購入したドーナツ(エンゼルクリーム・チョコファッション)2個を頬張りながら、ホテルの自分の部屋に戻りついた私なのでした。

部屋で明日(8月30日)の行動予定及び天候を確認していると、何と金沢地方は大雨

警報発令！大雨では移動が辛いものです。しかし「私は晴れ男」ということと、「しらすぎ3号」車内での上本通りの皆さんの自身満々の言葉を思い出し、きっと何とかなるさとベッドに入りました。

その途端、愛する妻子のことを思い出し、一人寝の寂しさに思わず枕を濡らしながら眠りについたのでした。

3 横安江町商店街視察

翌朝6時頃目覚めた私は、シャワーを浴び、身支度を整え、7時にはホテル壹階のレストランで洋定食をいただきました。しかし外を見ると「土砂降り」。大雨警報も変わらず発令され、私の晴れ男ぶりもここまでか、きっと昨晚の女の子についての嘘のせいだと改めて反省いたしました。

ところが部屋に戻り、テレビを眺めていたところ、天気予報は大雨警報発令中というのに、部屋の外の雨は止み、雲間も切れてきた模様。ホテルロビーでの集合時刻には雨もすっかり上がり、上機嫌で横安江町商店街事務所を目指したのでした。

商店街事務所到着時には大晴天となりました。このときから、私にとって天気予報は単なる「天気予想」に成り下がったのでした。

約束の時刻には少々早めに到着したため、玄関先で待たせていただくと、次々と関係者が到着。商店街事務所3階を会場として、当初、名刺交換をいたしました。

横安江町商店街関係出席者は以下の4名の方々です。

- ・ 横安江町商店街振興組合 所村 眞 理事長
- ・ " 篠田 直孝 専務理事
- ・ 金沢商工会議所中小企業相談所 林 重毅 商工振興課長
- ・ " 金丸 一彦 商工振興課長補佐

なお、この会場内で金沢商工会議所の方と横安江町の方々の名刺交換を目にしたときには、会議所と中心商店街との距離が本当に近い沼津市で商業振興を担当している私にとって、非常に不思議で驚きの光景でした。

☆視察概要

(1) 横安江町商店街 所村理事長あいさつ

- ・ 静岡県はNHKの中部六県で同じ時間に紹介され、親近感がある。沼津には行ったことはないが、沼津の千本松原は社会科で勉強したことがある。（増誉上人のことか）
- ・ 先週、今週とお盆明けで休みの商店が多く、人通りも少ない状況。
- ・ 金沢市内商店街はライバルが多く苦戦中であり、さらにイオン系の施設が街中に進出するため戦々恐々としている。

（２） 横安江町商店街 篠田専務理事概要説明

- ・ アーケード完成後46年経過し、老朽化が進み、商店街組合では撤去する方針が決定した。しかし撤去に関しての補助制度はなく、全額地元負担であり、組合員内には不安視する声もあった。このため組合で「まちづくり委員会」を結成し、協議した結果、アーケード撤去に関しては商店街振興組合員以外の街路に接する関係者全体の合意も必要であり、商店街と町会が協働で検討する必要があることから、今後の方向性や事業の検討を進める「横安江町商店街まちづくり協議会」を2003年に設立した。
- ・ この結果、2004年4月までに撤去費用を均等割りで地権者が負担することが協議会で決議され、2005年8月を目途としたアーケード撤去が決定した。

※スケジュール

- ① 2004年7月より工事開始
- ② 旧インターロッキングや下水等の掘り起こし
- ③ 2005年8月、電線を地中化
- ④ アーケードは長さ330m、幅8mあったが、一ヶ月強の工事期間で2005年9月には撤去が終了した。
- ⑤ 従前の歩道は蒲鉾型で、インターロッキングを敷き詰めていたが、現在のものはV字型で道の真中と両端に側溝を設けた。
- ⑥ 市の負担で融雪装置を設置。（当初は水撒きによる融雪を検討していたが、歩行者に優しい空間として、基本的に無散水融雪（道路下に地下水を通し、その熱により融雪）とした。この融雪装置は最新の全自動のものを導入したため、融雪の作業量の減や、コスト的にも大成功であった。

なお、以上の整備を進めるために、市と2つの協定を締結した

- ① 横安江町商店街地区のまちづくり計画
 - ② 横安江町商店街地区歩けるまちづくり協定
- (協定内容については、別添資料が詳しいため省略します)

(3) 上本通り商店街 長谷川理事長あいさつ

- ・ 月刊誌の日専連2月号に本商店街が掲載され、上本通りも同様の悩みを抱えているため視察を依頼したものである。
- ・ 上本通りのアーケードも40年経過し、耐震性の問題など安全面に苦慮している。
- ・ 組合員の脱退、廃業により組合員も減少化し、賦課金の減少等の理由により対応が難しい。
- ・ 撤去、新設とも多額の経費を必要とするが、各店舗の協力が得られ難い
- ・ 消費者は金を掛けてでも新しいものを望むが、商店主は金を掛けずに新しくしたい。
- ・ 旧国道を挟んだ商店街(アーケード名店街)は、市で歩道整備、モニュメント設置を実施した。これは市の「セントラルパーク構想」に位置付けられたものであるため市施工で実施されたが、上本通りは構想には入っておらず、市では歩道整備は関知していない。
- ・ 資金面の組み立ては、市、会議所との協働で実施していきたいと考えている
- ・ なお、再開発ビルが平成20年春に完成するため、いいチャンスと捉え、商店街も変わっていくことが期待される。
- ・ 具体的に、横安江町では行政、会議所との協働の手法をどのようにとられたのか、ご教示願えればと視察を依頼したものである。

主な質疑応答(Q=沼津市、A=横安江町)

A: 横安江町でも沼津市との同様の反応であった。15~16年前から撤去の論議を開始した。

5~6年前はアーケードを付け替えの方針であったが、空店舗の増、組合員の減(アーケードに接した店舗は85~86店舗だが、組合員は42店舗)などの問題があった。

協議会は商店街、町会、組合員でない商店で構成し、アーケード撤去のため特例として取り組んだ。組合と非組合員は仲が悪いのは当然。なぜ事業化が成功したかは

議論に議論を重ね理解を求めていったからである。

戦前から昭和 50～60 年代まで、市内では有数の商業地で、金沢といったら横安江という時代があった。しかし、門前町として栄えたため、肉・魚・野菜といった生鮮品を扱う商店がなく、日々の客が来にくい商店街であり、現在中心商店街としての再生に取り組んでいるところである。

Q：市長との関係は。

A：まちづくりに非常に熱心な市長であり、大変気に掛けてもらっている。

Q：沼津市のセントラルパーク構想には上本通りは関連していないので商店街が希望する事業が進展しない。行政の取り込みはどのように行なったか。

A：市長は「中心部に元気がないとダメだ」との思い入れが強い。しかしアーケード撤去云々よりも、商店街自ら、個店自らが努力、頑張らないとダメですよ。

Q：組合員の意識改革ができたのか

A：まちづくり協議会を含め、全体的な底上げはこれからである。

Q：アーケード撤去費用は。

A：2,100 万円が一番安い見積りであった。（長さ 330 m×両面で 1 mが 35,000 円程度）

Q：当上本通りでは組合員が減少し、テナントが多くなり、ほとんど飲食になってしまった。現在組合員は 45 件。店舗が飲食、金融、アミューズメントに移行していく中で、商店街共同施設設置は不可能と考えるが。

A：撤去費用は、テナントが少ないということもあるが、地権者から徴収した。

Q：アーケード撤去後の評判は。

A：門前町という性格のためか、高齢者の客が多く、撤去時は寂しいという声も聞かれた。しかし街全体が明るくなったとの反応が多く、好印象が多いと感じている。高齢者の多い商店街だが、通りが新しくなったことから若者も増えてきており、来街者数も撤去前より増えた印象がある。

Q：商店街内に中規模の新設されたポケットパークがあるが。

A：破綻した銀行の跡地が駐車場となっていたが、市が買い取り公園化した。

Q：電線地中化のトランスが1箇所にコンパクトにまとまっている。東電では考えられない設置方法である。

A：地中化については、福山市を視察したところ、2箇所に集約していた。北陸電力はある程度の距離を置かねばならないと当初コンパクトな設置を拒絶していたが、最終的には商店街内の空地に集めること（コンパクト化）に成功した。

Q：商店街の販促活動の状況は。

A：・毎月一度（第一日曜日）買い物客に券を渡して、果物をプレゼント。

・寺のイベントが毎月あり、これらに合わせ販促イベントを展開している。

しかし、寺の参詣客も減少し、寺の悩みとともに商店街の悩みでもある。

コンサルからは観光商業化の投げ掛けがあり、さらなる寺との取り組みの重要性を感じている。

Q：商店街の取り組みに対する金融機関の制度融資は。

A：県・市の制度融資が充実しており、金融機関のものは不明である。

Q：整備に当り、地元の金融機関に望んだことはあるか。

A：特になかった。業者に頑張ってもらい、コストを引き下げた部分があり、対応できたのではないか。

Q：街並み景観を揃えるための、外装整備費用は。

A：市の補助があり、一店舗当り上限200万円である。限度枠一杯の店も数十万円の店もある。なお、店舗自体を建替えたケースはない。

Q：総事業費は。

A：街路整備に7～8億円、修景整備に3,000万円、アーケード撤去に2,000万円

Q：家賃及び駐車場料金は。

A：横安江町付近の家賃は坪7,000円前後である。駐車場は月1万円程度であるが、金

澤駅付近は月1万5,000円、片町は2万円である。

A：8年後に、北陸新幹線金沢駅が上越新幹線経由で完成することもあり、駅前開発も進み、今後のまちの発展を期待しているところである。

以上で質疑応答を終え、視察を終了した。

4 視察終了後

昨日の約束通り、横安江町商店街にある木造3階建ての蕎麦屋「たきや」を訪れ、昼食タイムとなりました。店の主人も待ちかねていた様子。注文を取る前から、主人は「金沢に来たからには、治部煮(じぶに)定食を食べなさい」とのこと。木札のメニューに書かれている「木の葉丼」に興味を湧いた私としては、どんなのかと尋ねてみましたが「そんなものはどうでもいいから、治部煮を食べなさい。」とにべもありません。会議所の浅井部長は鶏肉が苦手のため「それには鶏肉が使っていますか」と確認しても「かしわがダメなら豚肉にすればよい」とどうも最初からメニューを決めていた節が見え見えでありました。

以前金沢を訪れたときに治部煮経験のある私としては、特に治部煮を食べたいとも思いませんでしたが、主人から貴重な話を聞けると我慢して、とりあえず皆さんと同じように治部煮定食を注文いたしました。

出てきたものは、茗荷と胡瓜を使用した副菜が数多く出て、それぞれは美味しかったですし、治部煮もそれなりにおいしいものでしたが、茗荷を食べすぎたためか、主人の話したことはほとんど忘れてしまいました。やはり弥次さん喜多さんの時代から、茗荷を食すると忘れっぽくなるとの話は本当であると、私自身の体でも実証されたのでした。

ただ一つ主人の話したことで覚えていることは「アーケード撤去で100人の客が1人になってしまった。あんた達はアーケードを取る計画だって。止した方がいい。アーケードは取るもんじゃない。雨の日や夏のカンカン照りなど、不便ではない」と怒りまくっていたことです。きっとこの主人は強硬な反対派の1人だったのでしょう。まちづくり協議会や行政など、推進していく方々は、きっとその扱いに苦慮したものと同情いたしました。

昼食後、長谷川理事長より「商人として金沢市老舗記念館は見なければならない」との言葉に従い、「金沢市老舗記念館」と隣接する「前田土佐守家資料館」を視察

し、その後「長町武家屋敷跡」を見て回りました。さすが歴史ある金沢のまち。若者達を含め他数の人々で賑わう流行の建物や百貨店、ホテルのすぐ裏手には歴史的建造物が多数残され、これがまちの雰囲気づくりに多いに活かされていると感じさせられたものです。

以上で、金沢市視察は終了し、金沢駅に戻り、駅の中にある百番街にて、お土産を買い漁りました。観光客にとって非常に便利な商業施設であり、沼津駅にも沼津土産だけでなく、伊豆の土産を売ったり、観光を紹介する施設が絶対に必要であると痛感いたしました。現在の沼津駅ビルの一階ではあまりにも貧弱すぎ、およそ観光客の方向を向いているとは全く思えないからであります。

帰りの車内でのことは省略しますが、沼津駅に到着後、反省会を「銀座ライオン」で開催しました。食い放題のしゃぶしゃぶ定食と飲物飲み放題で全員分を注文しましたが、皆さん旅疲れでビールを飲む元気はない様子。ダイエット挑戦中の私としても、当初は遠慮がちに箸を進めていましたが、大量の牛肉を目にしたところ、食欲が猛烈に湧いてきて、肉も追加、ビールも大量に嚙下、肉・野菜・うどんなど景気よく食べさせていただきました。本当にありがとうございました。

ただ、ダイエット効果で体重が順調に落ちてきていたのに、翌日ヘルスメーターで図ってみたら、出発前より3kgオーバー。現在もダイエット的なことは続けていますが、なかなか元に戻らないのがショックな私です。

5 視察雑感

- ・ 今回は、老朽化した上本通りアーケードの今後の対応の参考とするため、金沢市横安江町商店街を視察先としたものです。アーケードにより雨、日差しが防げるという効果がありますが、老朽化した場合、安全性、耐震化、あるいは古びた外観という問題があります。撤去後、新設しない場合、蕎麦屋「たきや」の主人のような意見が当然多く出されるでしょう。しかし新設した場合は、塗装・雨漏り対策などのメンテナンス等による経費を負担しなければなりません。そもそも、アーケード撤去に関する補助は、金沢市と同様、沼津市にもなく、国・県にもそのメニューは用意されておりません。全額地元負担となった場合、負担可能か、またその場合の負担方法など、横安江町に比較しテナントの多い上本通りの手法など、検討・協議をさらに進めていく必要があります。
- ・ 市としては、今後改正まちづくり三法に対応した「新沼津市中心市街地活性化基本計画」を策定していきます。この中で、再開発ビルに隣接する上本通りは当然中

心市街地エリアにゾーニングされると思われませんが、例えば新活性化基本計画に上本通りの整備を位置付け、国の選択と集中による深堀り支援を受けることが可能か、市・商工会議所・まちづくり関係者・商業者・地権者・自治会など多数の人々の意見を参考としながらまちづくりを進めていきたいと考えています。

- ・ しかし一番重要なのは、上本通りとして今後どのような姿を目指すのか（まちのグランドデザイン）を取りまとめていくことではないかと、私（柴田）としては考えているところです。
- ・ 一泊二日の中で様々な体験や、興味あふれるお話を聞かせていただき、上本通りの皆さんの暖かい対応に感謝しております。どうもありがとうございました。

平成18年10月1日

沼津市産業振興部商工振興課

商業係長 柴田 章義